

飛鳥

2008年

秋号

第 163 号

かわら版

ASUKA KAWARABAN

発行所

飛鳥出版室

発行人 永野 和宏

〒780-0945 高知市本宮町65-6

電話 088-850-0588

e-mail:info@asuka-net.jp

http://www.asuka-net.jp

飛鳥「かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援します。



(「和豆屋」さん店頭)
わんずや

～体にやさしい暮らしはじめませんか～

港の土曜市

高知オーガニックマーケット

毎週土曜日 午前8時～午後3時

高知港(わんぱーく高知東隣)にて

開催してます

かわら版163号・紙面
 おばあちゃんのお願ひ
 ふねごっこ 松崎淳子 2・3
 出版物紹介 丸林友文 4
 十一年振りの増刷です 6
 キルギスタンからコンニチハ 8
 風が吹いた 氏原名美 7
 ヒナタクサイ日記 河野桃子 8
 やまげんらつ 9
 パラリンピック 種田妃美 10
 スタッフリレー 平山 舞 11
 わが家の太郎 永野雅子 12



おばあちゃんのお願

松崎 淳子

まつざき あつこ
大正十五年四月二十八日生
高知女子大学名誉教授/土佐伝
統食研究会代表/よい食生活を
すすめるネットワーカー会長 他
平成二〇年春の叙勲にて瑞宝中
綬章受賞

「緑黄色野菜が なんちゃあない」

いいえ、冷蔵庫に葱があるでしょ。
さっとゆで、水には取らず、冷え
たら5センチ切り。ねり胡麻(市販)
と味噌・砂糖・酢を混ぜて和えたら
いい。「イカを入れんでもイケる」
と顔がほころびます。

「大根を炒めるという発想 もあるのよね」

根の3分の1を
マッチの軸より太めの拍子木に、葉は大
きいのも捨てないでかるく茹で、3セン
チ切り。油で炒めて塩・胡椒味をして、カ
チリがあれば加え、だし汁(酒でも)を少
し入れて炒りあげる。「イケる」からせひ
やってみて下さい。

「いたどりは煮るとは 限りません」

冷凍を戻した
のを細めに斜め切りして絞り、
生姜の繊維切りと三杯酢で和える。
この「カリカリ漬」はこの頃山村
で流行っています。大豊ではわ
らび、人参、にんにくも入れて「ス
タミナ漬」でブランド化してい
ます。酸でペクチン質が不溶性
になり、いつまでも歯ざわりを
保ちます。

このごろ、私は「ワンタ
ツチ」のできる野菜料理に
凝っている。しかもそれを
人に教えたがる。

だって、高知は野菜の供
給県で「園芸王国」を自認
しているのに、「県民の野
菜のとおり方が少ない」とい
う調査結果が出たから。手
作り志向が衰退して安易な
出来あい物ばかりでは野菜
不足になるのは当然！ だ
から、おばあちゃんの口と
手がムズムズするわけです。
この夏の高知市内中学校
家庭科研究会の研修でも、
早速……。

主食は黒豆ごはん。黒豆
を香りが出るまで炒って、
米を仕掛けておいた炊飯器
にジュン！ スイッチオン。
このご飯が炊ける間に、野
菜料理6つと魚と肉の料理
を各1つ。食材を手分けし
て切り、仕上げは次々と実
演して大皿に盛っていく。



『ピーマンは炒めるとは決まってない』

糸切りをさっと茹でて塩昆布の糸切りと和えるだけ。生産地の女性グループの作品です。ごまをふるとお洒落になります。

『オクラも簡単よ』

2分茹でると程良く粘るから、好みに切ってボールにとり、たっぷりめのすり胡麻(市販)と醤油、隠し味に少しの砂糖と酒。グルグル混ぜたらボールには何も着かない。オクラにくっついてます。

『茄子は昔、こうやりよりました』

90パーセントの水をもっているから、この水で煮ると茄子の持ち味が出ます。昭和初期に母たちがやっていた煮ものです。好みに切った茄子と杯一つ分の水だけ入れて強火で蒸し煮、一度上下にサビると急冷されて茄子が水を吸って湿る。これに砂糖と醤油を入れて中火で煮あげる。水分がかなり出てきて、なくなった時が出来上がり。

私たちは、科学の力を使って、自然を征服してそれを進歩だと考えた二十世紀を反省しなければならぬ。環境問題は警告以外のなにものでもない。二十世紀の文明に加担した分、できることはやらねば。

人の営みも「荒れ」がひどい。家族の自己修復能力が弱くなったのは、フツの食卓が消えていくのと同じ。食卓の信頼感が薄れ、無関心になり、安易な食へとなだれ込む。

都会の人たちが羨む食環境に暮らす私たちこそが、これを生かして本当の豊かさを提案したい。が、この問題はこうした末端努力だけではなく、政治姿勢から問い直されるべきじゃないかと、おばあちゃんは考えています。

出版 物 紹 介

「この船はタイムマシーンじゃあな?」

桂浜水族館学芸員 丸林 友文

ふねごっこ

B5判 24頁
 さく・え 丸林 友文
 制作 飛鳥出版社
 定 価 一〇〇〇円(税込)



『ふねごっこ』を出版させていた
 だいて三ヶ月が経ちました。書店の
 みならず、思わぬところにも配本し
 ていただき感激ひとしおです。二年
 前に制作した紙芝居が絵本という形
 で日の目を見ることになってうれし
 い限りです。

さてこの夏、外語系の大学に在学
 している息子が海外ボランティア活
 動でアイスランドに行ったのですが、
 お土産のひとつとして『ふねごっこ』
 を二冊持って行ってくれました。海
 外進出です。(アイスランドってど
 こだ? 地図で見るとえらいとこや
 ん!) 各国から集まったボランティ
 アスタッフの中、日本人は息子ひと
 りだけ。無茶するのーと思って心配
 していましたが、結構楽しく、ウル
 ルンしながらやってきたようで、
 フランス人とオーストリア人の二人
 と仲良くなり、本をプレゼントして
 翻訳してあげたとのこと。そ
 こでこの二人から意外な質問。

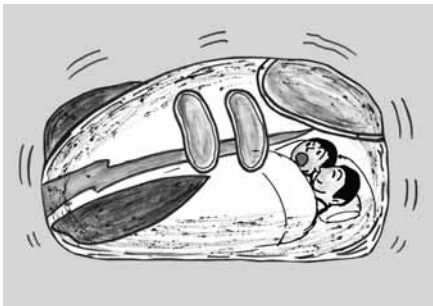


「この船はタイムマシーンですか?」
 ギエーツ、ゲゲーツ! なんと船
 のサイドにつけられたナンバーが始
 めと終わりの二場面がちがっている
 ではないか! ナンバーは紙芝居を
 制作した年の2006にしていまし

たが、絵本を作るにあたって200
 8に変更したはずだったので。始
 めの部分、ベッドが船に変身して深
 海に潜っていくシーンでは2008
 になっていますが、帰ってくる時の
 船は2006のままになっています。
 外国の方は言葉がわからないため
 絵の細部まで見てくれたのではない
 でしょうか。日本人でも小さい子ど
 もはすぐ気づくかもしれません。改
 ざんがバレましたね。さあどうした
 ものか。

さて、賢明なる私は知恵をしぼっ
 て考え、ひとつの結論を引き出した
 のであった! ジャーン。

絵本が出版されたのは二〇〇八年、
 そしてこれは二〇〇六年に制作され、
 手作り紙芝居コンクールに参加した後、
 細々と上演されていた紙芝居が一気
 に「浮上」してできたものなのだ、
 ということで、「これでいいのだ!」
 これが作者の意図するところであつ
 て思い入れなのだ。「これを読みと
 ることができるあなたは大胆なもの
 だ!と、とんでもない居直りですね。
 まあ世の中似たようなことがまかり
 通っているかも……ということであ
 りあえず一件落着といきましょうか。
 (まるはやし ともふみ/土佐市)



出版
物
紹
介



古稀の時の小松先生



小松洋水写真集
波 那

タテ22cm×ヨコ23cm 108頁
著者 小松 洋水
制作・印刷 株式会社 飛鳥

著者の小松洋水先生(94歳)とのご縁は、もう60年に近い。私たち第六小学校昭和28年卒業生が、小学校1年生として入学したのが、戦後間もない昭和22年のことでした。先生に送られて卒業してから、中・高校時代には夏はキャンプに海水浴、成人してからも春の花見、秋の月見と時には毎月のように集まって交流をしてきました。

私も中学時代、ちよとど先生が写真を撮り始めた頃から、写真を趣味としていたので、種崎の浜などで松林や浜に咲く花々を、先生の指導で撮ったことが昨日のことのように思い出されます。

先生はじっくりと狙って撮るタイプで、今回の写真集もそんな素晴らしい写真で埋め尽くされています。

実は、先生が写真集にしたかったのは茶畑の写真でしたが、膨大なボジフィルムの中から探し出すのは大変だということで、まずは「はな」の写真集になりました。百歳までに茶畑の写真集、また数々の名場面の写真集発行を期待しています。

(飛鳥取締役社長・永野和宏)

折々の記

回想・提言そして相撲

A5判 466頁
著者 林 勤
制作 飛鳥出版室



幅広く投稿してきた著者が今年傘寿を迎えて、一冊にまとめた。

本著は自分史的存在在でもある。巻頭8頁のグラビアが全体を物語る。

太平洋戦争と共に歩んだ中学生時代は学徒動員を体験し、5年制の旧制中学校を(20年3月)4年で卒業した(次年度は終戦の年で、5年生復元運動で選択制となった。4年で卒業は2回のみ)。

「第2部 その時々思ったこと」の社会問題への提言は鋭い。スポーツ参加の幅広さも面白い。昭和38年10月26日は東工業高校土俵開きの日、年度途中の異動で10月1日に着任したばかりの著者が人気大関豊山の胸を借り土俵に上がる! またクロスカントリー佐賀大会では抽選で特別賞が当たり、オーストラリア・ハーフマラソンへ参加という幸運のひと。相撲にかける情熱は知る人ぞ知る。本県力士への思い入れは玉錦から現在の土佐ノ海、栃煌山、豊ノ島と熱く、200頁を超す記録となった。



氏原名美

うじはら なみ
高岡郡越知町生まれ / 北大でロシア語を学ぶ / 2001年からキルギス国立ビジネスク人文大学日本語日本文学科学科長)

土佐ことば考

七月、八月、久々の長期時帰国。ちよつときつめの土佐弁の響きを毎日楽しんだ。しかし、リズムは昔と同じでも懐かしいことばは聞かえてこない。ふるさとが「帰省先」になって三十数年、自分のことばが古くなったのに気づかされた。

語彙は、文法や発音に較べ、新しいものに取って代わられるのが早い。朝、明るくなるのを「あこうなる」、目覚めを「おどろく」など、祖母はよく口にしていたが我々の時代には使用語彙どころか理解語彙にもない、はるかに遠い古語となっていた。「あかし」が「明るい」と「赤い」に分かれたように、人間の暮らしぶりとともに語義が二分三分し、新しい生活に必要な語彙が取り入れられるだけなら、ことばの数は充実してくるはずだが、そうはならない。生活圏が広がったのにお国ことばだけでやっていては互いの理解に支障となり、結局、古い語彙が新しい共通語に席を譲って地方のことばが廃れていく。

帰省中、「買った」ではなく、「買った」と言つのを何度も聞いた。「買ったが主流になれば、もはや「借りた」の、買ったは共存できない。遅かれ早かれ、「買った

も「借りた」も東ことばに駆逐されるのだから。また、思案のさなかの「考えゆづ」なのが結論が出た「考えちゆづ」なのか、どちらとも判然としない玉虫色の「ている」使用が増えているようにも感じた。

書きことばとして記録されることが少ない方言は、ラジオやテレビで日常耳にすることは、書物に表されたことばつまり、共通語の影響を受けやすい。テレビ番組で、インタビュに答える小中学生のイントネーションもアクセントも中央寄りの音色だ。地域の交流が広がると訛りは中和され、中央のことばに歩調を合わせるると方言独自の語彙が貧弱になり、相互理解や意思疎通を重視しすぎると表現に味がなくなる。

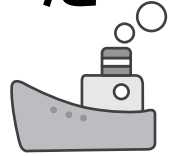
「着物」がkimono、「津波」がtsunamiといった具合に、実際に目で見てるモノや自然現象を表す語彙は、オリジナルが国際語として生き延びる。だが、文化的なことばの場合には、「わび」にしても、「さび」にしても、目に見えないモノではないから、辞書に記されている説明なしには異文化圏では理解できない。「じつそつ」も「ちきん」も、異文化語彙(土佐ことば)として日本語方言リストには残る。しかし、心情を表すことばは、話しことばにはか

り頼っていては生き残れない。国語教育の目標は、共通語の読み書きを修得させることだ。共通語にはかり目が向いて、地方の心がしぼんでいくことはないだろうか。

高校時代、英文和訳で面白かったのは特に会話を土佐弁に訳し、さらに教科書のことばはいわゆる共通語(にしてみることだった。土佐語パージョンと本土語パージョンを作って大いに楽しんだ。小学校で英語教育など始めるより、ふるさとのことば教育でもした方が有意義なような気がする。もっとも、姉にそそのかされて中学で英文土佐訳を試みた弟は頭の固い先生に「もっと真面目にやれ」と叱られたそつだ。

ふるさとを遠くに去って異国に暮らすものが偉そうなことは言えないけれど、祖父母の訛りを孫に引き継いでもらいたい。移り変わるのがことばの宿命だからこそ、いずれは中央日本語に吸収されてしまつかもしれないふるさとのことば、祖母の肉声で聞き覚えた土佐のことばで、昔話を俚諺も発音も忠実に、本に残すことができないか、考えてみたくなった。

風が吹いた



河野 桃子

なんということのない、ただの風だった。バスを降りると見慣れない風景があった。半年もたっていないのに、高知駅は大きく様変わりしていて、駅から歩いて五分もかからないはずの実家に向かうのでさえ、立ち止まって方角を確認しなければわからないくらい。

九月になって、私は約二十カ国を廻り、四ヶ月ぶりに横浜港に帰ってきた。東京の自宅に帰って、荷物の整理も終わらないうちに高知行ききの夜行バスに乗り込んだ。船旅の間、寝食は船がホテルだったので、人が生活をするところの「家」で眠るのは久々のことだ。あっ、一度だけ「家」に泊まった。



無事な船出を祝うマヤ族の儀式

グアテマラ 港からバスで二時間三十分、マヤの先住民族が暮らす町で一日だけのホームステイをした。不安だったのはお風呂。ここの人々はお風呂に入らないらしい。それはまあいい。でも、聞くところによるとシャワーもないらしい！で、代わりにあるのがサウナ。といっても、大人が二人しやがんで、ぎゅうぎゅう詰めで汗をかいたら、それを拭き取るだけという。

グアテマラはスペイン語の国。ホストマザーのメルセデスさんは全く英語がわからず、ご主人のペドロさんが簡単な単語をいくつか知っているのみ。私の英語も片言の域を出ず、とにかくジェスチャーに頼るしかない。



水にくぐらせた草で思いきり叩く、びしょぬれ！

お宅は普通の住宅で、部屋は四部屋ほどあり、大きなテレビや、六畳ほどの台所にはコンロやレンジもある。しかし、コンクリートの壁は薄く冷たく、洗濯物は雨ざらしのようだ。シャワーはあった！よかった！けれど、ぬるいお湯がちよるちよると出るのみで、汗を流しただけで出てしまった。それでも、後で聞いたところ他のステイ先より、かなり裕福だったようだ。

その夜は遅くまで英語とスペイン語の辞書を引きながら、折鶴を折りたり、朝ごはんの準備を手伝ったり……たった一日だったけれど、そこは久々の「家」だった。

東京に住んで六年。十八年間過ごした高知にとくべつ愛着も思い入れもなく、他人に誇れる魅力も言い表すことができなかった私。育った土地を出て、生まれた国も出て、私は地球一周の船旅に出た。それぞれの土地には、それぞれの空気が、人々が、そしてその地の暮らしがあった。どこにも、形は違えど同じように人が住んで、生活していた。グアテマラでは、そのうちの一つに少しだけ触れさせてもらった。そしてぐるっと廻って自分の生まれたところに帰ってきた。

久々の実家、久しぶりの「家」
二、三日と過ごすうち、私のなかにしんみりと落ちてきたことは予想もしなかった思いだった。(あたし、ここが好きや) そう思ったら、急に、なんということのない風が、すごく懐かしくなった。(ああ、ここが、あたしの生まれた場所ながやなあ) そう思ったら、自分のことがこれまで以上に好きになった。

高知を含めて、ぜんぶ自分なんだなあ。実家を離れて六年かけて、地球一周までして、やっとわかったこと。生まれて初めて実感になった。

あたし、ここが好きちゃ。

(かわの ももこ/東京都)

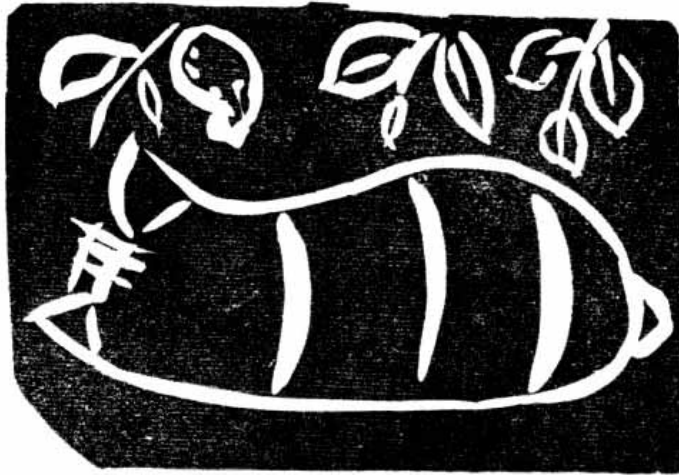
先日、独身の頃から九年間いっしょに暮らしていた猫が死んだ。私は小さい頃から猫が好きで、これまで何匹も猫を飼ってきた。実家でも、独り暮らしの時も（アパートを追い出されたりしながら）。どの猫もたいがい二、三年でいなくなり、そのまま帰らないのが常だったので、猫とはそういうものだと思ってきたが、この猫は九年、しかも「猫は家につくから、引越しをしづらいくなる」という通説を覆し、何度引越しをしても私の住居に居続けた。

息を引き取る数日前、猫はなにも食べなくなり、次いで水も飲まなくなり、寝る時間が増えた。次の日には目が見づらくなったらしく、ときより「にゃー」と鳴き、私達の返事で位置を確認し、娘（みよみよこ・七歳）に身体はどこかを預けて横たわった。娘は、猫が来ると宿題や食事の手を止めて、猫の頭をなでてやった。この猫は元気な頃、夜中の狩りでつかまえたネズミや蝙蝠を必ず娘の枕元に置いた。もしかしたら娘の姉貴分のつもりだったのかも知れない。撫でられるとグルグルと喉を鳴らした。そして何日か後、最期のときが来た。

娘と息子（みーた・六歳）は学校から戻り、ランドセルを背負ったまま、眠ったきり息をしなくなった猫と対面した。亡骸は菜園のふちにあるレモンの木の元に埋めることにした。

ヒトタケサイ日記 その一 猫レモン

by やまげんろう



の頭をなでていた。そして、埋葬が終わるとこう聞いてきた。「もう生き返らん？」私が「そうよ」と答えると、息子は「でもユウスケは生き返ったる？」と言った。

絶対に生き返らないのが鉄則」と私すると、「じゃあ、死んだらどうなるの？」と次の質問。息子は初めて身近なものの死に直面し、彼なりに理解しようとしているのだ。これは心して答えねば。

「さっき土に埋めたから、これから虫や小さい生き物達が猫の身体を土に戻してくれる。そしたらレモンの肥やしになって、おいしいレモンができる。そしたら美味しく食べて、種を土に埋めるのが生きているものの仕事だよ。そんなふうに、みーたもお母さんも、この世にあるものすべて、死んだものと生きたものつながりの中にいる。命のつながりって、すごいよね」

我ながら、百姓らしい回答だ。息子は、どこまで理解できたかどうかわからないが、力強く頷いていた。きつと、私はレモンを収穫するたびにこのことを思い出すのだろう。

動物と暮らすと、楽しいことも多いが苦労も多い。悲しみも必ずやってくる。しかし、私はその命から大事なことをたくさん学ぶ。

（香南市在住）

猫の死を思い、体育の時間に涙が出たという娘は、心の準備ができていたらしく、土を掘るのを手伝ったが、息子は土をかぶせる直前まで無言で傍らに座り込み、涙を流しながら猫

ユウスケというのはアニメの主人公。交通事故で死んだ後、霊界の都合で生き返る。「あれは、ヒトが作ったおはなし。生き返ったらいいなあと思っけど、この世では一回死んだら、

北京パラリンピック

車いすバスケットボール女子

種田妃美さんお疲れ様

北京パラリンピック

を終えて

種田 妃美

「鳥肌が立つ」と言う事をあんなにも体感したのは人生初でした。大舞台のパラリンピック開会式、ゲートを抜けて飛び込んで来たのは満員のスタンド!! そして大歓声!! 今までの苦労が一瞬にして吹き飛ばす程の感動が襲って来ました。「いよいよ始まる!!」

興奮冷める間もなく、競技開始。今までも数々の国際大会を経験してきましたが、パラはやはり一味違う感じでした。とにかく一戦一戦の緊張感がすごくて、その緊張感はずまらなく魅力的でした。「メダル」という目標に向け選手十二名、スタッフ四名同じ方向を目指しがむしやりに走ってきたこの四



(前列左から3人目が種田さん)

年間、その集大成の試合ひとつづつがあつという間に過ぎたという感じの日々でした。

結果は惜しくも「メダル」に届かずベスト4…。それでも後悔の念は無く、今まで生活の全てを懸けてやってきたものを残す事無く北京のコートにおいてきた私は胸をはって日本に帰って来ました。

たくさんの方々からパワーを分けてもらって感謝してもきれない位感謝しています。バスケットをやっけて本当に良かった!!! (たねだ きみ/高知市)



新風書房 (大阪・福山琢磨代表 発)

あなたの体験を
ご応募ください。

孫たちへの証書 第22集テーマ

あの時代の記憶を

記録にとどめよう

- ・第一部 国内での体験
- ・第二部 国外での体験
- ・第三部 亡き人たちの証し
- ・第四部 戦後、それからの私たち

内容 戦争体験 ドキュメン

トな体験(戦争に関連する闘病・事故・災害など)

戦争などで犠牲になった肉親のこと 戦後の苦境をどう乗り切ったか

字数 一六〇〇字以内

記入 氏名・年齢・住所・電話番号を明記のこと(匿名は不可)

締切 平成21年3月末日まで

入選 70〜80編を単行本として出版(8月)

謝礼 採用分には第21集を一冊贈呈

写真は採用決定後、提出していただきます。原稿の返却はいたしません。



知って得する PDFセミナー

平山 舞

十月三日に高松で行われたPDFセミナーに行ってきた。本当は先輩が行くことになっていたのでが仕事の都合で行けなくなり急遽私が参加させてもらう事になりました。パソコンに関する知識の浅い私が行って話が理解できるか、せっかくの勉強の機会を無駄にしてしまっじやなかろうかととても心配でした。いざ当日になってみると、会場に向かう道中で私のそんな心配も吹き飛ばすようなハプニングの連続で(事の顛末を書こうとしたら止められませんでした！ 残念です)不謹慎ながら、会場に着く頃にはずいぶん気持ち楽になっていました。

セミナーも受講してみると、PDFの事だけじゃなくフォントショップやイラストレーター、インデザインというアプリケーションのお得な情報があり、とても勉強になっておもしろかったです。言葉だけの説明でなく、スクリーンにパソコンの画面を映し出し、実際に動作を確認しながらだったのもとてもわかりやすかったです。

ただ、肝心のPDFの説明になるとだんだん頭がついていけなくなり画面に映し出される数字を見ては目が滑り、講師の方の声は子守唄の如く聞こえてしまう始末。お話の後半はほとんど頭に入らないという残念な結果になってしまいました……。

受講後、せっかく機会をいただけなのに理解できず申し訳ないと自己嫌悪に陥っていたら、社長が「世の中の流れがどういう風に進んで行きゆつか知ること勉強」と言ってくださり、目から鱗でした。

終わってみれば色々なことが勉強になった一日でした。この日得たことを少しでも役立てるよう、頑張りたいと思います。

(制作/ひらやま まい)

一般印刷

DM・ハガキ・チラシ・ポスター・封筒
会社案内・パンフレット・デザイン制作
シール・ステッカー・特殊印刷
一般伝票・コンピュータ用伝票
Windowsデータ印刷
展示パネル・超大判ポスター(1枚より)

IT事業

PDF制作・ホームページ制作・運用
名簿・顧客データベース等制作運用管理

飛鳥出版室

本を作りませんか!

自費出版・自分史・同人誌・社史・写真集
企画出版・製本(1冊より)・書店配本
各種記念誌等企画編集制作
学校新聞・機関誌・情報誌

少部数から大部数まで
低価格で予算に応じます



あらゆるニーズにお応えします

株式会社 飛鳥

〒780-0945 高知市本宮町65-6
TEL088(850)0588 FAX088(850)0599

<http://www.asuka-net.jp/> e-mail: info@asuka-net.jp



わが家の太郎 ⑩

永野 雅子



地球温暖化のせいとは言え、今年の夏の暑さは尋常ではなかった。昼間はエアコンを出来るだけつけけないように心がけたが、夜はやはりお世話になる。部屋を閉め切りたいところだが、夫が縁側を太郎の寢床にしたものだから閉めることができない。夏も冬も半開きの部屋で冷暖房をすることになる。

庭には小屋があるし、太郎お気に入りの大鉢には土を入れて、周りにはすだれまで掛けたお休み所まである。それなのに、それなのに……。

おかげで物干しも隅に追いやられ、さしずめわが家の庭は太郎様専用の体。

庭に出るのも、いちいち柵やらネットを外さなければならぬのでブンブンしている私をよそに、夫は「太郎のお陰で中性脂肪が減ってきた」と喜んでいいる。散歩で歩くのが効を奏しているようだ。

以前、歩く替わりにと熱望して購入した運動器具が、縁の隅に置き去りになっているので、

「お父さん、使わないなら処分しようよ。邪魔にもなるし」というと、「まあ、置いておこう」と、そのままになってた。

ある日、ふと見ると太郎がペダルにあごを載せて眠っている。その格好のおかしさにカメラを向けたのがこの一枚。

結局この運動器具も太郎のあご載せとして相変わらずの場所にある。

こうして甘やかすものだから、三歳の柴犬だというのにすつかり臆病者になってしまつて、公園で子供達がかげ声を掛けながら野球の練習をしている所に出くわすと、足を踏ん張つて一步も行かない。きびすを返して戻つてしまつのである。

そのくせ夫や私には八つ当たりのようなやんちゃをする。

太郎も本当は広い野原を駆け回りたいたい所だろうけれど、長寿手帳をもらつたような飼い主の世話にならねばならぬとは因果なことかもしれない。

(ながの まさこ/飛鳥常務取締役)

雑書き

今号からの新連載「ヒナタクサイ日記」 ヒナタクサイ(日向臭い)とは、干し大根など天日干しの野菜で煮物をするとき独特の匂いが出る、その二オイのことだそうです。筆者の手による消しゴム版画も楽しみです。

(河の)

9月も半ば過ぎ、ちよつと遠出をした帰路、きれいに並んで咲くひまわりを見つけた。「あんなところにチューリップが並んでる」と私。すかさず「朝顔やろ」と二女。「二人ともなに言いつうが。ひまわりやんか」と長女。この親にして……。

(しま)

「もつ、あんたはいくつよ」
何とでも。開き直つた私は今、すごく漫画にハマっています(今までも相当ですが…)と家族の声)。少女漫画は昔は読んでいましたが、今はさすがについていけない、と思つてました。が、イケる!読める!意外に面白い!登場人物のA君もB君もC君も同じに見えて、見分けがつかないトコロはあるが??。

(清)